

2026 年 8 月発行

安房普及だより

〒294-0045 千葉県館山市北条402-1 TEL: 0470-22-8132 FAX: 0470-22-0097

ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-awa/awa/fukyuudayori.html>

発行: 千葉県安房農業事務所改良普及課・安房農林業振興協議会普及事業部会



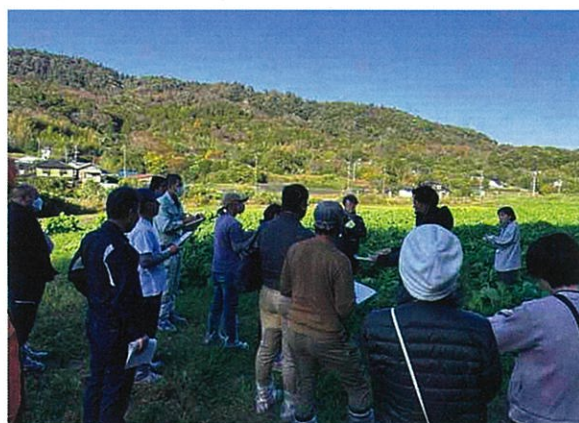
省力化機械見学



先進農家視察



意見交換（前作の振り返り）



食用ナバナほ場視察

食用ナバナ新規出荷者の定着を目的に、作付拡大意向のある若手生産者を対象として、（二財）南房総農業支援センター、安房農業協同組合と協力して令和7年度から本セミナーを開催しています。

昨年度は合計4回開催し、作付計画の作成、耕うん畝立て同時播種機など省力化機械の見学、効率的な収穫方法の検討などを行いました。今年度は、5月に前作の振り返りをテーマにグループワークを行いました。セミナー生同士で悩みの共有や課題の改善策を検討する場面があり、研修会が仲間との貴重な情報交換の場にもなっています。

ステップアップを目指すセミナーの仲間を募集しています。詳細は当事務所にお問い合わせください。

盛り上がってます！
食用ナバナステップ
アップセミナー

トマト黄化葉巻病対策について

トマトやミニトマトにおいて、タバココナジラミが媒介する「トマト黄化葉巻病」が千葉県内で多発しています。

初期に上位葉が黄化して葉巻症状となり、やがて葉脈間が黄化して葉が縮みます。さらに症状が進むと、開花してもほとんど結実しなくなり収量に大きく影響を与えています。

「トマト黄化葉巻病」は、ウイルスを保有しているタバココナジラミが、健全な株を吸汁することで感染させます。本病の蔓延を防止するためには、ウイルスを媒介するタバココナジラミの防除が重要となります。

タバココナジラミの対策として、ハウスの開口部に目合いの細かい(0.4mm以下)防虫ネットを展張することで外か

らハウスに侵入されることを防ぐことができます。また、育苗期等の栽培初期から農薬等による予防を心がけることで、数を増やさない管理をするのも重要です。ハウス内だけでなく、ハウス外の雑草も発生源となるため、施設周辺の除草を心がけます。

なお、発病株は放置せずに、抜き取り、処分しましょう。



タバココナジラミ



トマト黄化葉巻病

千葉県農林総合研究センター提供

夏季のカンキツ類の

栽培管理

安房地域で広く栽培されており、家庭菜園でも多くの方に親しまれているカンキツ類ですが、気候変動によりこれまで以上に丁寧な管理が求められるようになっていきます。

夏季の管理でまず重要なのが摘果です。生理落果が落ちてく頃に樹の観察を行い、着果程度を調整しましょう。着果過多のものについては粗摘果を行ってください。その後、温州ミカンでは粗摘果の1か月後、中晩生カンキツ類では8月中旬から9月上旬に果実の大きさ調整のための仕上げ摘果を行ってください。

次に重要な管理はかん水です。早生温州ミカンにおける適切な乾燥ストレス強度の目安は、果実横径が10日で3mm肥大する程度で、外観上は葉が巻き、葉色がわずかに褪せ

る程度です。過剰な乾燥を受けた場合、葉の黄化や落葉が見られ、翌年の着果量にも影響します。7月上旬から9月末までの必要なかん水量の目安は、雨量換算で2週間毎に30mmです。昨年の館山アメダスの累積降水量は7月が52mm、8月が29mmであったため、樹にとっては過乾燥となりました。また、中晩生カンキツ類では、梅雨明けから乾燥が続くと果実の酸が抜けにくくなり、食味が落ちる原因になります。暑い中での作業ですが、適切な管理を心がけましょう。



適度な乾燥ストレスを受け葉が巻いた状態の早生温州ミカン

県産切花の輸出について

千葉県では、成田空港を活用した新規販路開拓に向け、県産切花を輸出ポテンシャル品目に位置づけ、切花の輸出実証に取り組んでいます。令和8年1月8日に上海、令和8年2月10日にグアムで開催された販売イベント「千葉県フェア」に向けて切花の輸出の実証実験を行い安房地域の生産者も参加しました。

実証では、カーネーション、スプレーストック、ホワイトレースフラワー、ラナンキュラス、エンドウ等の切花品目を本実証試験を委託された(株)FLOWER KINGが各産地を訪問して切花を回収、輸送を行い、各国に輸出しました。

「千葉県フェア」が行われた上海やグアムでは輸出品目について現地でアンケート調査を行い、上海では自国で生

産のない品目の評価が高く、消費される切花の全てが輸入されるグアムではポピュラーな品目が評価されました。

今回の輸出を行った生産者からは、現地で高い評価を受け手応えを感じた品目がある一方、価格競争などの課題もあり、輸出の拡大にはより効果的なプロモーションが必要であるとの声も聞かれました。令和8年度も千葉県では輸出を行う予定です、輸出に関心のある方は、当事務所まで御連絡ください。



輸出された花

夷隅地域の耕畜連携の取組について、視察と座談会を行いました！

夷隅地域の稲WCS生産等の取組は、いすみ市内では水稻農家による主食用品種（コシヒカリ等）の栽培が中心で、その裏作として飼料用トウモロコシを栽培するなど、地域の実情に応じた独自の工夫により耕畜連携を進めていることが特徴です。

そこで安房地域の水稻農家、畜産農家、関係機関含め29名、令和8年2月4日に視察を行いました。

最初にいすみ市の酪農家を視察し、稲WCSや飼料用トウモロコシの品質、牛への給与方法、コスト低減のために使用しているエコフィードについて視察しました。

次に会場を移動し、視察した酪農家の方々、夷隅農業事

務所職員と座談会を行いました。市内の取組ではいすみ市が大きな役割を果たしており、畜産農家と水稻農家への意向調査や年2回の連携会議の開催など各種調整を行ってきました。しかし、主食用米の価格高騰の影響で水稻農家がWCS用稲から主食用米へ転換し、取組面積が大幅に減少するなど、連携体制の維持が難しくなっている現状がわかりました。

また、輸入飼料価格の高騰を契機とした自給飼料への転換や、産地交付金単価の確保など、県全体の共通課題に対してどのように捉え、取り組んでいるのかも分かり、有益な座談会となりました。

当事務所では、地域の耕畜連携のあり方について関係者が先進事例を参考にできるような、これからも機会を設けていきます。

安房地域の若手農業者紹介

館山市広瀬地区で令和4年に就農し、約20haの水田で稲作経営をされている畠山秀一さん（44歳）を紹介します。

畠山さんは主食用品種の他、WCS用稲の栽培をしています。また、水稻苗の販売や乾燥調製、畔塗り等の作業受託も取り組んでいます。

また、JA安房主催若手水稻生産者向け研修会「良稲の学び舎（よいねのまなびや）」に参加し、栽培技術等を学び、自身の経営に活かしています。『「良稲の学び舎」への参加で同世代の水稻農家と知り合いになった。導入を迷っている機械や田づくりの仕方などについて相談できる仲間ができてよかったと思う。引き続き日々の農作業が楽になるような努力をしていきたい。』とのことでした。

畠山さんの益々の御活躍が期待されます。

◎「良稲の学び舎」の内容

「良稲の学び舎」では、基本的な栽培技術に関する講習会や土づくり等の専門的な知識を持つ講師の方をお招きしての講演会の開催、お互いの経営を見せ合う相互訪問などを企画し、行っています。



追肥作業を行う畠山さん



びわ栽培初心者向け研修会

「枇杷ゼミ」参加者募集!!

安房地域は温暖な気候を生かした「房州びわ」の産地であり、全国でも有数のびわ産地です。その場所では就農を見据えた「房州びわ」の栽培に挑戦したい方、栽培初心者であり、びわのより深い知識を習得したい方に向けた栽培講習会が実施されます。



房州びわ

講師は、「房州びわ」生産者等が務め、実地の作業体験や座学にて基本的な知識やせん

定、摘房・摘らい、摘果・袋かけ、収穫・出荷等を行います。令和8年9月から3月の間、全5回の研修を予定しております。



令和5年度 開催時の様子

本研修会の詳細な日程や、申込み、お問合せは（株式会社ちば南房総）までお願いいたします。

【主催】

南房総市農林水産部

地域資源再生課

【申込み】

株式会社ちば南房総

電話番号：0470-33-4611